

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 3

2012年11月22日(木)発行

発行責任者：草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

小平市制施行50周年記念「市民活動まちづくりシンポジウム」

参加した多くの市民の皆さまに感謝

(報告) 細江卓朗

小平市制施行50周年記念事業の一つである市民活動まちづくりシンポジウムを10月6日(土)、小平市福祉会館で開催しました。このシンポジウムは、市の公募に応じた市民27名と市職員とが実行委員会を結成し、小平市社会福祉協議会の協力を得て4月から準備を進めてきたものです。

先ず自分のまちづくりに対する想いや講演者に話していただきたい内容、自分ができる事などについて全員が記入し提出。一方両講師の本や講演録、新聞記事などをベースに両講師の考えなどを勉強。それに基づき、キャッチフレーズ、演題、目的、開催趣旨など一字一句にこだわりみんなが納得するまで議論を重ねました。

“みんなで創る～「ずっと住みたいまち」小平～”というキャッチフレーズ、早瀬昇さん(日本NPOセンター代表理事)の「私からはじまるまちづくり」、汐見稔幸さん(白梅学園大学学長)の「多世代がいきいき暮らすまちづくり」という演題は、こうした経過を経て決まりました。



この日は三連休の初日で、運動会などの行事が多い日だったにもかかわらず、230名近い参加者で市民ホールはほぼいっぱいになりました。

また、今回のシンポジウムでは、まさに「みんなで創る」ために、どなたにも参加していただけるように、子育て世代のためには保育を、聴覚障がい者の方のためには手話通訳を、聞こえにくさを感じておられる方のためにはパソコン要約筆記をお願いし、障がい者席も設けました。そういった方々が参加してくださったことも嬉しい出来事でした。

早瀬さんは、市民活動の考え方、心構え、陥り易い事象と解決策についてたびたび会場を笑いに巻き込みながら大変わかりやすく話し、また汐見さんは、最近の日本の子どもたちを取り巻く遊びの環境悪化の事例とその原因、小平のまちづくりをどうするか、示唆にとんだお話をして下さいました。

これから何か始めたいと考えておられる方、既に何らかの活動をされている方、双方から「講演に参加してよかった」と満足した声が多数寄せられました。今後何らかの形で継続出来ればと思っています。

「西地区地域ネットワーク」とは？

今年3月17日にさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々が「お互いの顔が見える地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。

市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか？

活動は自分の好きなテーマを選べ・・・早瀬 昇



小平を「世界の一つだけの街」に・・・汐見稔幸

〔報告〕 白梅学園大学 奈良 勝行

(本稿は、当日の講演とシンポを筆者が IC レコーダーで記録したものをまとめたものです)

1. 主催者あいさつ：実行委員長 細江 卓朗
小平市長 小林 正則

2. 基調講演 (13:15~15:15)

(1) 早瀬 昇先生(日本 NPO センター代表理事): 「私からはじまるまちづくり」

- * 市民活動は、「私」から始められる自由な活動であり、一方「お役所仕事」は全体を見据えて常に公平性を考えて行う、という違い
- * 市民活動のテーマは自分の好きなものを選ぶのが一番の鍵
- * ボランティア活動は恋愛に似ている：自発的な行為の無償、対象を選べる、『好き』であることが基準、“機能”以上に“存在”に意味がある関わり、出会いは偶然、しんどいこともあるが元気になれる、etc.
- * 「ダメでモトモト」の精神を持って。「自己責任」で動けるから何事にも挑戦せよ。
- * 自発的活動では燃え尽きることがある一頑張る人ほど疲れてしまう！
- * “疲労と不信の悪循環”から脱するには「あきらめる」、「運動する」、「孤立させない」が大切
- * 熱心なグループほど「仲間割れ」しやすいから、そうならないために「あまり熱心に活動をやらない」「強力な“ドン”」を作ることが重要
- * 孤軍奮闘を脱し、仲間を広げるには「和して同ぜず」「ネットワークはフットワークの足し算」と考える
- * 「孤独」とは愛することを“おびえる状態”——「愛される」ことは大切だが、「愛せる」ことはもっと大切
- * 真に生きがいの天職とは、「私がやりたいこと (will), 私ができること(can), 社会が求めていること(needs)」の混合体と考える

(2) 汐見稔幸先生(白梅学園大学学長):

「多世代がいきいき暮らすまちづくり」

* ちょっとショックだった児童公園事件
2年前のNHK・TV「クローズドアップ現代」番組を見てショックを受けた。ある公園に「声を出して遊んではいけない」という看板が出された。これは、その近所に住む女性が市役所に子どもの声がうるさいから規制して欲しいという要望を出したことに始まる。番組担当者がその女性に「昔はどうでした？」と尋ねると、彼女は「昔は子どもがどこの誰だかというのが分かっていたから別にうるさいとは感じなかった」。これは不審者警戒の雰囲気による街の健康さの劣化によると考えられる。今日では児童生徒ばかりでなく高齢者も多く引きこもりの状態になっている。

* バーミンガム体験

この都市は街づくりで有名。行ってみると街が美しく「散歩したくなる街」であった。以来私は日本でも「散歩したくなるまちづくり」を目指している。街並みの環境づくりを市民ひとりが心がけ、街路、花壇など公共空間を大切にする。市民オーケストラにみんなが聞きに出かける。日本でもあちこちにベンチを設置し“ダベリング”できるようにしたいと思う。「日本ベンチ同盟」を作りたいと思っているくらいだ。

* レッジョ・エミリヤ体験

北イタリアのレッジョ・エミリア市の隣のボローニアには世界最古のボローニア大学がある。university という単語は語源的には union (組合) であり、いわば「学生による組合」という意味——つまり大学は若者が勉強するために集まった組合であった。街にはたくさんプラッツア(plaza)やBAR(パール)というカフェ(café)があり、みんなが集

まって議論している。ボローニアでは市長や市議会議員は「無給のボランティア」だ。皆仕事を持っているので夜、議会を開く。

レッジョ・エミリヤは幼児教育で有名な都市で、最近「レッジョ・エミリヤ・アプローチ」と呼ばれる保育が世界の注目を浴びている。人口わずか 14 万人の地方都市が世界的な評価を浴びたのは 1991 年に Newsweek 誌に「最も革新的な幼児教育」として紹介されたからだ。教育予算は全体では市の予算の 40%を占めるほどだ。レジスタンス運動の体験を踏まえてコムーネ(英語の community)単位の街づくりが盛んで、あちこちのコムーネが「世界に一つだけの街」を目指している。

*多世代が交流し、支え合うまちへ

小平の市内各所にコミュニティ・カフェをつくることを提案したい。また保育園の厨房を借りてそこへ市民が集まり料理を作り、お年寄りが子どもとそれを食べるなどして多世代が交流するのも良い。都市農園をつくる、職人がワークショップを構えるといったことも考えられる。地区全体がみんなで新しい小平づくりのモデルを模索するようにしたい。子育て世代のたまり場としての学校、社会体育の拠点としての学校づくりもしたい。「学社融合」の都市をめざしてはどうか。

3. 分科会 (15:30~16:30)

- (1) 早瀬さん分科会 (4 F 小ホール) ——
— (参加していないので内容は不明です)
- (2) 汐見さん分科会 (5 F 市民ホール) ——
(およそ 60 人参加)



講師の冒頭発言の後、休憩時間にアンケート (●小平の暮らしで良いと思っていること、●小平の暮

らしで困っていること) に書いた市民の紙片がホワイトボードにカテゴリー別に張り出された。これによると、

- 暮らしで良いと思っていること (カテゴリーで多い順)
 - ① 緑が比較的多く環境がいい、
 - ② 文化的活動拠点 (公民館、地域センター、図書館など) が多い、
 - ③ 市民活動が盛ん
- 暮らしで困っていること
 - ① 道路が狭い (車道と歩道の区別が少ない)
 - ② 畑や農地がだんだん減少、
 - ③ 市民団体はたくさんあるが横のつながりが少ない

この後、参加者からの質問・意見交流に移った。

- * 子育てしているが交流する場が欲しい
- * 児童館では地域の子どもたちといっしょに昼食を取る場を設けている
- * 65 才以上の高齢者でも働ける場がほしい
- * 学校をもっと community school 化できないか
- * 今年 3 月 17 日に市内の NPO, 自治会、学校、民生・児童委員会の関係者が集まって「小平西地区地域ネットワークを立ち上げて、さまざまな活動を展開している。10 月 20 (土) ~ 21 (日) に「白梅学園祭」を開くので皆さん方参加してください。

最後に、講師が次のように述べた。

市民の皆さんが自分の要求やアイディアを出しあって交流できる場を作ったらいいと思う。だれかがやってくれるだろうでなくて、自分が進んで関心のある人たちといっしょに運動を起こしたらいい。たとえば富山では「この指とまれ」というデイケアセンターを造って 3 世代が交流しているし、習志野市のある小学校では「昼間は学校使用、夜は地域住民が利用」でいろいろな活動を行ってきずなを深めている。

小平は次の 50 年は「市民が主人公のまちづくり」をめざし、小平を「世界の一つだけの街」にするように皆さんが努力すべきではないか。

『市民まつり』—前夜祭に8,000人、パレードに13万人！

「新こだいら音頭」をぜひ踊って！

地域文化課長 齋藤 武史

10月21日の日曜日に、市内最大のイベントといえる第37回小平市民まつりが、秋晴れの中、盛大に開催されました。今年は、皆さんもご存じのとおり、小平市は市制施行50周年ということで、記念行事が年間を通して目白押しですが、市民まつりも、特別バージョンとして、前日20日の土曜日に、前夜祭として、ルネこだいら大ホールでは地域伝統芸能大会が、小平駅南口ロータリーからあかしあ通りにかけては駅前ロータリーイベントが開催されました。

人出は、21日の市民まつり本番が前回よりも5千人多い13万人に、20日の前夜祭が8千人となりました。

この市民まつりは、市民まつり実行委員会が主催であり、踊りやパレード、舞台の催しやみこしなど、多くの市民団体や地域団体がこぞって参加する最大の市民イベントとなっています。

(神輿が行く・21日(日)のアカシヤ通り)



特に、今回の前夜祭については、異例の小平駅前での開催ということで、地元の町会や自治会をはじめ、6つの商店会も店や飾りなどで精力的に参加いただきました。

このように、市民まつりは、多くの市民が日頃の活動の成果を発表したり、パレードを通してメッセージを発信したり、また、みこしや出店などで地域

の親睦を深めるなど、いわゆる市内のコミュニティの醸成を図る絶好の機会となっています。

(「前夜祭」小平駅前ロータリーにて)



さらに、今回は、これも市制施行50周年を記念して、これまで永く市民に親しまれてきた「小平音頭」を踏まえ、新しい小平の音頭として「新こだいら音頭」が制作され、その発表披露が前夜祭で行われました。この「新こだいら音頭」は、歌詞は市民公募で、作曲や歌入は市内の音楽家が、振付は制作実行委員会が担当するなど、いわゆる市民により制作されました。この「新こだいら音頭」は、これから、地域の盆踊りなどで、「小平音頭」とともに、市民に愛され、地域コミュニティの一層の醸成を図る役割を担っていくことが期待されています。皆さんも、ぜひ踊ってみませんか？

(「新こだいら音頭」を踊る子どもたち)



まちづくり・仕事おこし・社会づくりを協同の力で

—協同が創る 2012 年東京三多摩集会開催—

NPO 法人日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会
東京三多摩山梨事業本部事務局長 相良 孝雄

私たちは、西地区ネットワークの「市民が主体となり、まちづくり、地域づくりを行うこと」に深く共感をしています。

NPO 法人ワーカーズコープは「地域の課題を市民と共に、仕事おこしやまちづくり」を目指す団体です。小平市内では、2つの児童館（小川町2丁目児童館、花小金井南児童館）と学童クラブ（6小第2学童クラブ、学園東小第2学童クラブ）を現在運営しています。その他、現在は開催されていませんが、鈴木町の商店街で生活保護受給者の職業訓練や就労支援を多くの方の協力をいただきながら、開催しました。

私たちは、市内で児童館や学童クラブの運営をする中で「中高生の居場所」「若者の就労の場」「障がい者（児）の居場所と働く場」がまだまだ足りないと感じる中、「仕事おこしのプロジェクト会議」を市民とともに進めながら、居場所や働く場をつくっていく動きをしています。

10月14日（日）に白梅学園大学を会場に「今、協同が創る 2012 年東京三多摩集会」を『「まちづくり・仕事おこし・社会づくり」を「協同」の力で』をテーマに開催しました。全体で 101 名の方が参加をしていただきました。

午前中はパネルディスカッションを開催し、白梅学園大学の「濱口優先生」や東村山市で「障がい児の居場所」、「働く場」をつくる取り組みをしている「下野陽子氏」、多摩ニュータウンで地域の福祉総合拠点として市民や働く人が出資・経営している「込煮亭」の取り組みを「孟蘭氏」から報告していただきました。コメンテーターの白梅学園大学の山路憲夫先生からは、「地域課題を発見し、解決する、リーダーの役割や存在、その育成が重要」とのコメントもいただきました。



その後、ミスター文科省と呼ばれ、現在、京都造形芸術大学の寺脇研氏から記念講演がありました。氏はゆとり教育の意味するものや、地域で子どもたちが育つことについて講演。その後、4つの分科会に分かれて、各分科会で報告を通じて、参加者同士が交流しました。最後に白梅学園の汐見稔幸学長から、「協同」を中心に、ワーカーズコープとまちづくりをしたいといく連帯の挨拶をいただきました。

終了後の懇親会でも 25 名が参加をし、汐見稔幸学長と寺脇研氏の記念鼎談が開催され、多いに市民が主体となるまちづくりの在り方や子育て支援の在り方について、学ぶ場となりました。

来年 2 月 24 日に「小平市制 50 周年記念子育てシンポジウム」を白梅学園大学を会場に開催します。白梅学園および西地区ネットワークの皆さんとも協同をしながら、市民が主体となるまちづくりの一翼を担いたいと考えております。

10年1,000回の「夜回り」を目標に

—夜回りチーム「安心・安全ウォークネット壘」の活動— 久保田 進

私は68才の現役サラリーマンです。都心の新宿から小平に転居して20年になります。私が市民活動に取り組むきっかけとなったのは、妻の近隣友好の姿でした。しかし奥さん同士が仲良くなっても亭主間で何らかの関係性が生まれないと深みのあるお付き合いに発展していかないな、新しいコミュニティづくりが必要だな、と感じておりました。

住民が共通して意識するのは「防犯・防災」だろうと、7年前に飲み仲間を誘い年間を通じての「夜回り」を始めました。当面の目標は毎週2回、10年、1000回続けることです。この間に自然に仲間が増え、新しいコミュニティが芽生えると考えたからです。毎年、防犯・防災の体験学習を開催し、近隣の住民が接触する機会をつくりました。毎回30～40世帯の方々が参加してくださり、住民の皆さんからの信頼も得てきています。

しかし、「夜回り活動」はお誘いをするものの参加

してくださる方は生まれません。主力メンバーも一時は12名まで増えましたが、現在では転居や転勤などもあり4人にまで減ってしまいました。この間、より住みやすい地域づくりには住民同士の結びつきが大切であることを理解して頂きたいと、小平市自治基本条例づくりに参加して地域の皆さんにPR、農のあるまちづくり公募委員に就任し地域内の農地を”たまり場”として農家と住民同士の繋がりをめざした園芸福祉にも組んでみました。しかし、私の力不足と一市民の立場の限界もあり自身の目標達成に至りませんでした。

このような時に誕生したのが白梅学園大学主催の「小平西地区地域ネットワーク」でした。地域に根差した大学との連携が可能になります。地域住民の皆さんも安心して関わられる環境が整ってきました。私自身も腰をすえて活動できる機会を頂戴できたと心から喜んでおります。

「うたのおねえさん（山田昌子さん）」と合唱楽しむ

—小川西町公民館まつり—

白井 光子

10月13日（土）・14日（日）の二日間、第32回小川西町公民館まつりを開催しました。公民館まつりは、日頃公民館で活動している皆さんが学習成果を発表する場、地域の皆さんと交流する場として毎年開催します。例年10月第4週に行ってきましたが、様々な行事と重なってしまうので、今年は日程をずらして開催しました。



両日とも天気に恵まれ・・・14日15時くらい

から雨が降り始めましたが、昨年より参加団体も来場者も増え、とても賑やかなまつりとなりました。例年の十三小児童の皆さんの作品のほか、六小と二中の児童・生徒の皆さんの作品を展示させていただけたこと、近隣自治会や地域のみなさまにポスターを貼っていただいたことで、多くの方が足を運んでくださり、賑やかなまつりになったと思います。

13日（土）には、NHK教育テレビなどで『うたのおねえさん』として活躍された山田昌子さんをお招きし、その歌声に聞き入りました。また、ご指導いただいて、会場みんなで声を合わせて歌いました。

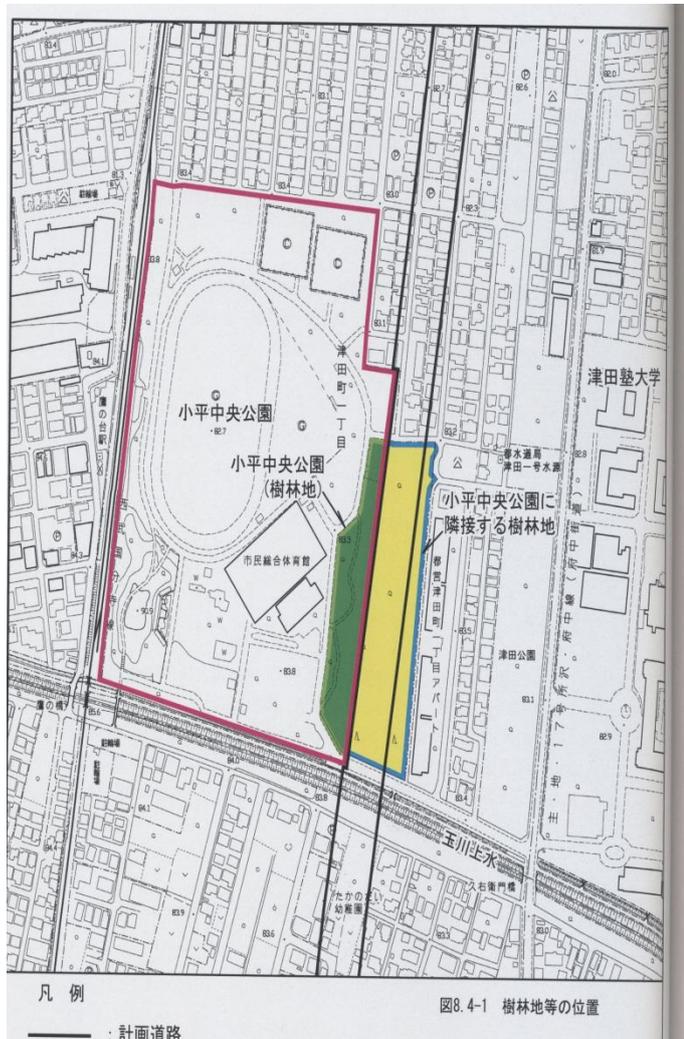
「しあわせなら手をたたこう」など、お隣の人と触れ合いながら、楽しい1時間半を過ごしました。作品展示や舞台発表のほか、手作り品の販売もあります。来年も秋に開催予定ですので、あしをお運びいただければ幸いです。

小平中央公園横の雑木林が半分、道路に変わる？

「3・3・8 都道建設問題」の住民投票への協力を一

小平都市計画道路に住民の意思を反映させる会：水口 和恵

(都市計画道路「小平 3・3・8 号府中所沢線」(注1と周辺の地図)



(注1) 東京都は、11月19日に開催する都市計画審議会で、道路の幅を22~36mから、32~36mに変更し、名称を「3・3・8号府中所沢線」から「3・2・8号府中所沢線」に変更する予定です。

小平の西地区の住民にとって、鷹の台駅に隣接する小平中央公園は、馴染みの場所だと思います。上水本町に住んでいる私も、子どもが小さかった頃、よく遊びに連れて行きました。中央公園に行くとき

は、玉川上水沿いを通っていきます。上水沿いの木々は、新緑の時期は黄緑色、秋には赤や黄色に色づき、足元には季節に応じて可愛い花が咲きます。

私が大好きなその中央公園の体育館の横の雑木林と玉川上水に道路を通す計画があり、実現に向けて動き出していることを知ったのは、5年ほど前のことでした。小平3・3・8号府中所沢線という名称で、府中と所沢を結ぶ、幅36m4車線の東京都の道路計画です。

府中市部分は既に完成し、現在、国分寺市部分は土地の買収が進んでいます。小平市部分は、五日市街道から、府中街道と青梅街道が交わるクランク部分までを結ぶ約1.4kmです。現在の府中街道とは、55~200mほど西側を通ります。220戸ほどが立ち退きを迫られます。

東京都は、既に環境アセスメントを終え、周囲の環境に大きな影響はないという結論を出して、今年度中に国に事業認可申請を出そうとしています。

市民に多くの犠牲を強いてまで、造らなければならない必要な道路なのでしょうか？ 直接影響を受ける小平市民の意見を計画に反映することはできないのでしょうか？

私たちは、市民参加で計画を見直すべきか否か、小平市民に投票してもらう住民投票の準備を進めています。住民投票の実現には、市内有権者の50分の1にあたる約3,000名の署名が必要です。署名期間は、都知事選挙終了後の12月17日から、3月市議会への住民投票条例案提出に間に合うように1月11日までとしました。

住民投票の実施を求める署名にぜひご協力をお願いします。

自立心や協調性や奉仕の心を

—ボーイスカウトの目指すもの—

日本連盟北多摩地区小平第五団・委員長 柴田康晴

(フレンドパーク参加者と「くもの巣づくり」)

白梅学園大学さんとの交流のきっかけは、「チーム小平」が中心にて開催した中央公園での「福島の子どもを呼ぶ会」でのイベントでした。「チーム小平」はボーイスカウト小平第五団の先人が中心になり、いち早く立ち上げた被災地支援チームです。

このイベントに小平第五団も白梅さん同様支援グループの一員として参加し、子育て広場GPのメンバーと話し始めたばかりです。

(「ビーバー」から「かぶスカウト」へ上進)



ボーイスカウト運動は100年以上の歴史を持つ世界機構の教育活動で、小平第五団は現在スカウト20名、リーダー18名、世帯数では約50家族が参加しています。分布は小平全域で、女子スカウトは小平では五団のみ受け入れています。

プログラムは男女の区分は無く基本的に野外活動を中心に行い、自然の中で異年代の大勢の子供達同士がふれあい、様々な体験をする事で自立心や協調性、奉仕の心を身に付けてもらうことを目的としています。

昨今身近な公園や広場、学校でも中々自由に遊べる場所や時間も無いように見受けられます。発達障害を持つ子供さんも気がかりです。親子で遊んでいる風景もまれです。このような点からも地域で、将来を担う子供達を育てる必要が今後益々重要だと感じています。



大学も地域とより密接に、地域の一員として子育てを真剣に考え、取り組み始めて頂いており心強い限りです。

学生さんの豊かな発想力や行動力、豊富な幅広い知識を子育て現場で体験し醸成して頂きたいと願っています。ビーバー、かぶ、ボーイ、ベンチャー隊と年代に応じたプログラムを毎月2回程各隊で実施していますので見合ったプログラムに是非参加してみてもどうでしょうか。地域の一員として出来ることから行動しませんか。

(ペットボトル・ボーリングに興じる)



[連絡先]

柴田：携帯 090-2444-8295

防災訓練で地域のきずな、さらにしっかりと

(第1ブロック) 西 克彦

10月13日(土)、「地域防災は近助(所)の関係から」をモットーに、13小地区地域防災ネットワーク主催の地域防災訓練が都立小平特別支援学校で行われました。同ネットワークは、小平市の地域防災活動のモデル地区でもあり、3年ほど前から、同じ場所で防災訓練を行っています。

(アルファ米の混ぜご飯とトン汁の試食)



当日の参加者は、地域の自治会住民、障害者施設利用者、高齢者クラブ、民生委員など130名あまり。自宅や施設から会場までの避難、日ごろからの心構えや備え、防災施策についての情報提

供、炊き出しの体験、そして地域ごとの交流会と情報交換などが行われました。

民生委員児童委員協議会の会長さんは、「こういう訓練で日ごろから地域の皆さんが顔見知りになっていることが、いざという時には大事です。」と話されました。また、市の防災担当者は「ここで行われているような地域の防災のネットワークを全市に広げていただきたい」と話しました。避難所での実施を想定した炊き出しはアルファ米の混ぜご飯とトン汁の試食で、地元のコープとうきょうなどからの提供があったと報告されました。

他に主催者からの報告では、いざというときに避難者が集中すると、受付で、名簿やグループ分けなどを上手にしないと現場での混乱の元になってしまうことを考え、今回は、地域ごとのグループ分けで知恵を出したとのことでした。確かに、会場に来て、住所を告げると、日ごろの知り合いの人のいるグループに入ることが出来ました。ある高齢者は、「知合いもいることで、心細くなくなったり、他の人の消息もわかったり出来ることを体験できました。こういうやり方はいいね」と話していました。

ほっとスペース「さつき」ミニバザー開催します！

第4ブロック担当：杉本・森山

日時：2012年11月25日(日) 10:30~15:30

場所：「さつきハイツ」

(鷹の街道沿い、小川公民館入り口左) 1階

当面の運営経費のねん出と場所のご紹介のためにバザーを開催いたします。たくさんのおみなさまのご来場をこころよりお待ちしております！

連絡先：杉本研究室

TEL: 042-346-5658 内線351

小平市西地区ネットの第4ブロック(小川町1丁目、たかの台、津田町1丁目、上水新町三丁目、上水本町)では、いよいよ地域の居場所として「ほっとスペースさつき」(仮称)をスタートさせることになりました。

当日は、子供服、おもちゃ、ぬいぐるみ、本・雑誌、CD、DVD、使用していない食器・タオル、文房具、石けん・洗剤、子ども用品などを扱います。

多彩の人たちの交流の場に

—白梅祭の「ネットワーク」の展示—

白梅学園大学短期大学保育科 瀧口 優

例年10月末に開催される白梅学園大学・短期大学の学園祭(白梅祭)ですが、今年度は10月20日、21日に開催され、小平西地区地域ネットワークとしてはじめて取り組みました。

源ゼミと一緒にI23教室を使用しましたが、3月のオープニング集会で確認されたネットワークの目的や関係者の思いをパワーポイント用紙で展示し、小平西地区全体を大きく写し出す地図と地域内に存在する公的な施設を写真入りで展示しました。

地域の方々からは玉川上水に関わる資料や写真の提供をいただき、この西地域が自然に恵まれた地域であることをあらためて確認することができました。また、小平西地区地域ネットワークでこの1年間取り組んできた内容と白梅学園の歩みを写真とともに展示しました。

当日は、地域の世話人の方々をはじめ、長く地域にお住まいの方々が展示室をたずね、地域の昔の様子だけでなく、これからどのようにしていくのか語り合うことができました。学園関係からもオープニング集会で講演をされた小松理事長をはじめ同窓会の

役員、先生方、そして地域に関心を持つ学生も見学を訪れ、隣の源ゼミの東北への手作りおもちゃの作成を含めて、豊かな交流の場になったのではないかと思います。

ただ、地域への宣伝が十分にできず、私たちの取り組みを知らせることが足りなかったことが課題として残りました。次年度はもっと積極的に地域に宣伝を行うようにしたいと思います。準備にあたって資料等の提供していただいた皆様にお礼を申し上げますと同時に、小平市制50周年記念の当日に重なりながらも「小平西地区地域ネットワーク」の存在を少しでも知らせることができたことに感謝します。

なお、学生たちも教職員が地域に積極的に関わっていることを知り、もっと自分たちも関わらなければという率直な声も寄せられています。

今年度は教職員を中心に取り組みましたが、来年度は学生が主体となって取り組めるよう、今から準備を進めたいと思います。

今回の展示会に協力された世話人・教職員・学生の皆様に厚く御礼申し上げます。

家族が楽しめる文化祭を目指して—白梅祭「ほっとスペース」の取組み—

家族・地域支援学科2年 森田 悠治

(お兄ちゃん、何を作るのかな?)



白梅学園祭では、地域の方々を楽しめる縁日や大型遊具などのイベントを用意しており、また、保護者向けのゼミナールの発表や講演などが行われておりとても充実しています。しかし、文化祭の中には休憩所や授乳スペースがなく、赤ちゃんを連れてお母さんの負担が大きくなっています。そんなお母さんたちの要望に応えるべく、白梅子育て広場では毎年、文化祭で親子がくつろげる空間として「ホッとスペース」を設置しております。

「ホッとスペース」とは、にぎやかな文化祭で疲れた親子が自宅と同じように、一息ついてくつろい

でもらう場所です。そのために、マットを敷いて

靴を脱いでもらったり、授乳スペースを用意するなど工夫を施しております。

今年の「ホットスペース」では、絵本コーナーやお絵かきコーナー、リラックスコーナーを用意しました。「絵本コーナー」では、年齢別に絵本を用意し、学生による読み聞かせを行いました。「お絵かきコーナー」では、壁や床に模造紙を用意し、学生と子どもが大きなスペースでのびのびとお絵かきしました。また、家庭でのお絵かきではあまり使用しないポスカを道具の1つに用意して、普段とは違うお絵かきを楽しんでいただきました。

「リラックスコーナー」では、赤ちゃんと保護者の方々がお昼寝できる空間や、落ち着いて遊べる空間を作り、学生手作りのフェルトの積み木やモビー

ルを用意しました。学生が様々な工夫を施し文化祭の参加者を迎え入れ、その結果、1日目と2日目で合計28組125人の家族に楽しんでいただきました。

実際に利用した保護者の方から「学生の皆さんが親しみやすかった様で、子どもたちも楽しそうでした。親の私も安心してみていられました」「始めて利用しました。子どもは寝ていてお布団を貸してもらいました。子育て中のママにとってとても必要な場だと感じました。これからも頑張ってください」などの声をいただきました。

白梅学園と地域が子育てで広場でつながるきっかけとして、来年度以降も開催していきたいと考えています。

市

大人気、“カボチャ大魔王との戦い”

白梅祭企画「miniあそぼうかい」

子ども学科2年 一倉 克彰

学園祭で行なった「miniあそぼうかい」には70組以上、150人を超える親子にご参加いただきました。

今回のテーマは、「お菓子の国を取り戻せ！～僕らミニパティシエ～」。子どもたちは、「カボチャを倒せコーナー（的当て）」でカボチャ大魔王と戦い、「新聞紙プールコーナー」では隠されたお菓子たちを探し出します。会の後半には、保護者の方がカボチャ大魔王の手下になり、子どもたちの前に現れるというミニイベントを企画。子どもたちの盛り上がりもさることながら、保護者の方からも、楽しかった、またやりたいという声をいただきました。

また、私たちの企画に関わった学生は、白梅祭の中で参加者がおもいきり遊び、交流できる場をつくらうというビジョンをもとに「子どもだけでなく、保護者にも楽しくあそんでもらうこと」「小学生にも楽しんでもらうこと」などを意識しながら取り組みました。

「制作コーナー」ではケーキ形の写真立てを制作しました。子どもだけでは難しい工程であるため、親子で一緒につくりました。また、小学生にお手本として遊んでもらうなど、遊びの中で小学生を中心に子ども同士の交流を作っていくことで、比較的年

齢の低い幼児と小学生と一緒に遊ぶ様子をつくりだすこともできました。

（カボチャ大魔王をたおせ！）



あそびを通して親子のつながり、参加者同士のつながりをつくるのがあそぼうかいの強みであることを感じながらも、子育てを支え合える関係として、これらのつながりを家庭や地域に持ち帰ってもらうことが今後の課題であることを再認識しました。

多くの方に参加いただいていると同時に、学生として、私たちも経験や発見を参加者の方から「学んで」いること、子育てを支える拠点として地域に根付きつつあることへの責任を強く受け止めて、今後の活動を作っていくと考えています。

イベント・行事情報

11/25	日	ほっとスペース「さつき」ミニバザー	白梅大学
12/1	土	上宿小青少対まつり（上宿小）	上宿小青少対
12/5	水	朝鮮大学校定期演奏会（オリンピック記念センター）	朝鮮大学校
12/9	日	おもちつき（子どもキャンプ場）	小平自由遊びの会
〃	〃	小中学生による子ども・教育フォーラム（ルネこだいら）	市教委
12/14	金	コミュニティ・カフェ	白梅大学
12/14~17		年末チャリティ美術即売会&コンサート	NMC ギャラリー&スタジオ
12/15	土	子育て広場シンポジウム（白梅大学）	白梅大学
〃	〃	一小青少対・「餅つき大会」	小平一小

ネットワーク担当者一覧

白梅学園大学からのお知らせ

第6回白梅子ども学講座

「いじめの」の深層を考える

12月3日（月）18：30～20：30

「いま、子どもの現場で何が起きているのか」

1月31日（木）「子どもの心と家庭・学校・地域」

2月20日（水）「いじめにどう対処するのか」

主催：教育・福祉研究センター・子ども学研究所

会場：国分寺Lホール（国分寺ターミナルビル8階）

定員：各回150名 受講料：各回1,000円

申込み・問い合わせ先：同上のセンター

TEL:042-346-5639 FAX:042-346-5652

Email: center@shiraume.ac.jp

ブロック	世話人	教職員
1	西 克彦・布 昭子	山路・瀧口・井上
2	芳井正彦・足立隆子	関谷・土川
3	石川貞子・久保田進 穂積健児	草野・西方・牧野
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田 誠 細江卓朗	森山・杉本・ 瀧口（眞）
全体的		奈良・長谷川・ 成田・吉村

（次回学内打ち合わせ会）12月4日（火）

次回世話人会：1月10日（木）

懇談会：1月17日（木）

お願い：このニュース『小平西のきずな』の編集方針は「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加者の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。

ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当（奈良まで）お申し出ください。

投稿募集：このニュースレターは皆さんと一緒に作るものです。活動やイベントの企画などについて原稿をお寄せください。 Email：ever.onward.nara@aroma.ocn.ne.jp 奈良

編集後記：小平市制施行50周年記念行事、白梅学園祭その他公民館祭りなど秋の一連の行事が終わりました。これらを集めた「きずな」第3号をやっと発行できました。次号は来年1月（？）、ちょっと早いですが、皆さん良いお年を！（N）